

災害に備えた地域での支え合い研修会

「向こう三軒両隣」

お互いの気遣いの心を持ち合わせる
取り組み

絆の会（清田区・平岡第一自治会内）
世話役 塩谷 正美

平成30年12月10日

平岡第一町内会の概要

- 札幌の梅の名所として知られている平岡公園より1,2キロ北にある町内会。
- 自治会は昭和55年に発足。
- 世帯数約 4 3 0 戸、人口約1,500人
区域内には平岡小学校、児童会館、銀行、スーパー、居宅介護事業所、商店2軒、公園3ヶ所、マンション1棟、アパート11棟。
- 高齢化率33,6%（ H29.10.1清田区社協調べ）

平岡第一町内会の福祉活動①

- 住民が安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して
平成26年福祉推進委員会を立ち上げ。

平岡第一町内会の福祉活動②

- ◆活動
 - ①ふれあい活動（見守り）
 - ②福祉勉強会
 - ③救急医療情報ポスターの配布
 - ④福祉相談窓口の開設
 - ⑤徘徊認知症高齢者の搜索協力

- ◆運営 福祉推進委員会（年1回）

住民協力員参加

企画調整会議（2ヶ月毎）

委員長、事務局、民生委員で構成

平岡第一町内会の福祉活動③

◆ふれあい活動（見守り）について

・日常

ふれあい活動の対象者14世帯を22人の住民協力員 2人一組の体制で月1回訪問。

・災害時

点と点を結ぶ：日常のふれあい活動の延長線上で災害時に安否確認と避難誘導を行う事は①訪問距離②住民協力員不在時の対応③住民協力員高齢化等から対応が非常に難しい。

平岡9条2丁目 「絆の会」 発足①

- 平成28年度の世帯数は47戸で、65才以上の独居と夫婦は15世帯で全体の約3割を超えている。又、今後、独居や災害時の要配慮世帯が増加することが予想されている。
- このような情勢を踏まえて「住民が安心して暮らせる地域社会を構築」するため、我々はどう行動すべきかについて話し合う。
- その結果「向こう3軒両隣」の大切さを再認識し、地域という小さな面で、何気ない気遣いの心を互いに持ち合わせる「絆の会」を12名の住民で平成29年4月に発足した。

災害時要配慮者避難訓練の実施①

(1)目的

車椅子生活されている住民を災害時に安心、安全に避難支援するため近隣住民はどのような活動が必要か訓練で確認し対応の向上を図る。

災害時要配慮者避難訓練の実施②

(2) 要配慮者について

- ・ 60代男性。
- ・ 戸建て住宅で、妻、息子と3人暮らし。
- ・ 脳出血の後遺症による片麻痺、失語症。
- ・ 常時、車イスを利用。右足補装具利用。

災害時要配慮者避難訓練の実施③

(3)災害想定

- イ. 11月下旬。午後8時。気温0度。
- ロ. 地震震度 6 弱
- ハ. 家屋被災。壁ひび割れ、窓ガラス破損。
- ニ. 暖房 ストーブ地震により停止。
- ホ. 家族 妻は所用で外出。息子は勤務で不在。
怪我はなし。一人のため大きな不安を抱え動揺。

災害時要配慮者避難訓練の実施④

(4) 訓練の流れ

- イ. 訪問. 入室. 安否確認
- ロ. 避難支援に来た旨の説明
- ハ. 防寒対策
- ニ. 車イスの着席確認
- ホ. 移動（室内～戸外～避難所）

災害時要配慮者避難訓練の実施⑤

(5)訓練の体制

絆の会 8名

協力機関 9名

清田区役所、第一地域包括、相談支援事業所

デイサービス事業所、病院

ワン・オール（あんしんのまちコーディネート事業）

災害時要配慮者避難訓練の実施⑥

(6)避難訓練の実施にあたって①

絆の会、協力機関との事前会議を実施。

テーマ「安心・安全な避難訓練の実施にむけて」

- ・関係機関の役割紹介
- ・要配慮者の現状の生活について共有
- ・絆の会メンバーの支援経験の共有
- ・避難訓練に必要な内容の協議。

災害時要配慮者避難訓練の実施⑦

(6)避難訓練の実施にあたって②

会議で決定した事

- ・基礎知識（座学）の習得（失語症、介護など）
- ・基礎知識（技術）の習得（車イス操作、移動など）

「安心、安全な避難訓練」を行う為には、上記2点が必要！

避難訓練時にミニ講座を実施する事になった。

北海道胆振東部地震時の対応①

- 災害時要配慮者の安否確認について

要配慮者の真向かいに住む20代の男性が早刻声掛け。

- 要配慮者の奥さんの話

「主人は怪我こそ無かったが、強い揺れで動揺しており、暗い中で不安感が募った。そんな時、声掛けをして頂き、とても心強かった」

北海道胆振東部地震時の対応②

- 災害は時に身体に障がいがある方や独居高齢者等の要配慮者は不安を強く抱くので「絆の会」としても特段の気遣いが必要である事を痛感した。今後の活動に反映していきたい。

今後の活動について



H30.11.1 会議
地震後の振り返り、町内の状況等を話し合いました。

今回の地震で「近隣の何気ない
気遣いの心を持ち合わせる事が
如何に大切であるか再認識する
事ができました。

住民として肩肘を張らず、この活
動を継続する事を「絆の会」として
話し合いました。

今後は若い人にも積極的に呼
び掛けを行い、地域住民の財産と
していきたいと思います。